

## 協会けんぽ山口支部における肝炎ウイルス検査促進と陽性者の受診率向上への取り組み

研究分担者：日高 勲 済生会山口総合病院 消化器内科  
研究協力者：土井 克彦 全国健康保険協会山口支部

**研究要旨：**いまだに肝炎ウイルスに感染していることを知らないまま潜伏している感染者や陽性と知りながら受診していない患者も存在する。職域における肝炎検査の一つとして、我が国最大の保険者である協会けんぽによる、624 円の自己負担（協会けんぽが約 1455 円を負担）で受検可能な肝炎ウイルス検査があるが、その受検率は年 1%前後であった。先行研究では、Nudge 理論用いた「簡易リーフレット」使用により、受検数増加につながった。しかし、その後は年々減少し、2022 年度の受検率は 0.9%となった。受検促進にはリーフレットの改定だけでなく、継続的な取り組みが必要であることが示唆された。一方、検査陽性者の、医療機関受診率は、協会けんぽ山口支部では 70%程度と良好であったが、独自に作成した陽性通知書（受診勧奨文書）による受診勧奨実施により、未受診者の新たな受診を認め、受診率は 80%以上となった。個別勧奨は職域においても肝炎ウイルス陽性を受診につなげる有効な手段である。

### A. 研究目的

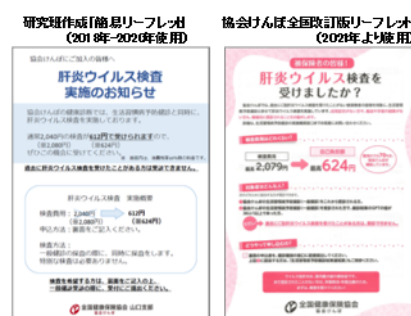
ウイルス肝炎は肝炎対策基本法前文に国民病と記載されており、適切な受検受診につながるよう、様々な施策が講じられてきたが、いまだに感染を知らないまま潜伏している感染者や陽性と知りながら受診していない患者も存在する。

「肝炎対策の推進に関する基本的な指針」では、肝硬変又は肝がんへの移行者を減らすことを肝炎対策全体の目標に掲げており、そのためには、肝炎ウイルス検査の受検を促すこと（受検促進）、検査で陽性となった者が速やかに肝炎患専門医療機関を受診するよう促すこと（受診勧奨）、適切な診療を継続して受けれるよう支援すること（受療支援）が重要である。

職域における肝炎ウイルス検査の実施機会として、我が国最大の保険者である全国健康保険協会（協会けんぽ）における 624 円の自己負担（協会けんぽが 1455 円を負担）で受検できる肝炎ウイルス検査がある。その受検率は年 1%前後であったが、Nudge 理論用いた「簡易リーフレット」使用による受検促進を検証した先行研究では、受検率

の増加を認めた。協会けんぽ山口支部においても、先行研究で「簡易リーフレット」を用いた同様の効果検証を実施し、介入初年度に受検率の増加を認めたが、本研究班との取り組みの結果、協会けんぽ独自の全国版「簡易リーフレット」が作成され、山口支部でも 2021 年より使用されている。

協会けんぽにおける肝炎検査の簡易リーフレット（協会けんぽ山口支部）



本研究では効果検証を継続するとともに、更なる受検促進につながる新たな取り組みについても検討する。

また、陽性者のその後の受診状況についても実態把握を行い、未受診者へ受診勧奨を実施し、受診率向上につながるか効果検証を行うことを目的とする。

## B. 研究方法

2018 年度より協会けんぽ山口支部内において個人に郵送する健診案内に研究班作成の簡易リーフレット兼受検申込書を、2021 年からは協会けんぽで改定された全国版簡易リーフレットを同封しており、受検数（率）、陽性者数（率）、レセプトデータベースによる陽性者の医療機関受診の有無を解析した。また、2021 年 1 月より独自に陽性通知書（受診勧奨文書）を作成、協会けんぽ山口支部より未受診者に送付する受診勧奨を開始し、その後の新規受診の有無を解析した。

## C. 研究結果

### 受検数、受検率の推移と陽性者数

2017 年度以降の協会けんぽ山口支部における肝炎ウイルス検査受検数（率）の推移は下図のとおりである。

協会けんぽ山口支部における肝炎検査実施状況

肝炎検査数の推移

	健診数	肝炎検査数	受検率
2017年	95767	1087	1.1%
2018年	100027	3419	3.4%
2019年	104358	2496	2.4%
2020年	105921	2165	2.0%
2021年	111851	1525	1.4%
2022年	114316	1031	0.9%



簡易リーフレット同封前の 2017 年の検査数は 1087 件（検査率 1.1%）に対し、簡易リーフレット送付開始した 2018 年は 3419 件（3.4%）と増加したが、その後減少傾向で、全国改訂版に変更した 2021 年は 1525 件（1.4%）、2022 年は 1031 件（0.9%）と、介入開始前と同等まで検査数は減少している。

尚、検査における陽性者（支部内のみ）は 2018 年度 23 名（HBV10 名、HCV13 名）、2019 年度 11 名（HBV4 名、HCV7 名）、2020 年度 13 名（HBV6 名、HCV7 名）、2021 年度 15 名（HBV9 名、HCV6 名）、2022 年度 9 名（HBV4

名、HCV5 名）であった。

協会けんぽ山口支部より、健診実施医療機関にリーフレットの個別配布依頼を行っていたが、分担研究と研究協力者が健診機関を訪問し、実地調査を行った結果、複数の施設で配布が十分に行われていないことが判明した。介入前の 2018 年には健診実施機関向け説明会の中での検査案内の徹底を説明したが、その後は特に説明を実施しておらず、2024 年度の健診実施機関向け説明会の中で肝炎検査について再度案内を実施した。

### 陽性者の受診状況と受診勧奨の効果

レセプトデータにより受診状況を確認したところ、2020 年時点で、2018 年度から 2020 年度の陽性者 70%以上で受診が確認できた。さらに受診時期についても確認したところ、受診者の 75%以上が 3 か月以内に、90%以上が 6 か月以内と陽性判明後比較的早期に受診していた。

未受診者に対し、2021 年 1 月より独自に作成した陽性通知書（受診勧奨文書）および山口県で作成した職域検査における初回精密検査費用助成案内リーフレット、肝疾患専門医療機関一覧表を協会けんぽ山口支部より送付する受診勧奨を開始したところ、

肝炎検査陽性未受診者への受診勧奨資料



送付物-陽性通知文書と専門医療機関リスト、初回精密検査費用助成案内、専門医療機関一覧

2023 年 7 月時点で、2018 年度、2019 年度の未受診者 11 名（2021 年 1 月に受診勧奨実施）中 5 名が、2020 年度の未受診者 7 名（2021 年 9 月に受診勧奨実施）中 2 名が、2021 年度の未受診者 4 名（2022 年 6 月に受診勧奨

実施)中1名が新たに医療機関を受診した。  
 なお、2022年度における未受診者に2023年に受診勧奨予定であったが、未受診者は2名で、いずれも外国籍で、住所が定かでない、受診勧奨を実施できなかった(下図)。

受診勧奨の実施時期と実施後の新規受診の状況

受検期間	勧奨文送付日	送付件数(未受診者)	新規受診数		
			HBV	HCV	
2018年4月～2020年3月	2021年1月21日	11件	HBV	8	4
			HCV	3	1
2020年4月～2021年3月	2021年9月13日	7件	HBV	4	1
			HCV	3	1
2021年4月～2022年3月	2022年6月27日	4件	HBV	3	1
			HCV	1	0
2022年4月～2023年3月	未実施	2件	HBV	1	-
			HCV	1	-

受診勧奨の結果、2023年7月時点における陽性者の受診率は2018年度91.3%、2019年度100%、2020年度84.6%、2021年度60%、2022年度77.8%と高率な受診が確認できた(下図)。

肝炎検査陽性者の受診確認状況

年度	陽性者数	受診数	受診率	2023年7月時点	
				未受診1名は外国籍	未受診1名は外国籍
2018年	HBV	10	9	90%	
	HCV	13	12	92.3%	
2019年	HBV	4	4	100%	
	HCV	7	7	100%	
2020年	HBV	6	5	83.3%	
	HCV	7	6	85.7%	
2021年	HBV	9	6	66.7%	
	HCV	6	3	50%	
2022年	HBV	4	3	75%	未受診1名は外国籍
	HCV	5	4	80%	未受診1名は外国籍

支部外の受検者は除外して確認

## D. 考察

従来の検査申込書では、協会けんぽ山口支部における肝炎ウイルス検査の受検数は年間約1000件(受検率1%程度)であったが、研究班作成の簡易リーフレット配布に変更後、一時的に受検数は2-3倍に増加し、リーフレットの有効性が示唆された。しかし、介入初年度以降、検査数は経年的に減少傾向で、2021年に協会けんぽ全国改訂版に変更後、さらに検査数は減少し、研究介入前と同等となっている。

実地調査を行ったところ、その要因として簡易リーフレットが個別の健診案内に封入されていない健診機関が複数あることが判明した。研究介入初年度には健診実施機関向け説明会の中での検査案内の徹底を依頼したが、その後は実施できておらず、2024年度の説明会で、再度肝炎監査に関する案内を実施した。さらに、次年度以降、協会けんぽ山口支部ホームページや各種広報媒体を通じた事業主および加入者に対する広報を実施していく予定であり、検査数の再増加につながるか、今後検証する。

また、研究班で当初作成した「簡易リーフレット」はNudge理論用い、文字数の大幅な削減など工夫していた。2021年度より使用している協会けんぽ全国改訂版の案内は、以前と比較すると文字数は減少しているものの、研究班作成資料より文字数が多く、カラーも異なる。効果減少の一因として、リーフレット変更の影響も否定できず、次年度以降、使用リーフレットの選択についても、協会けんぽ山口支部と協議していく予定である。

協会けんぽは保険者であり、医療機関受診者のレセプトが確認でき、レセプトデータより受診状況の推測が可能である。研究協力者による調査の結果、検査陽性者70%以上が、検査後比較的早期に医療機関を受診していることが判明した。

さらなる受診率向上に向け、2021年より保健指導員から未受診者へ、独自に作成した陽性通知書(受診勧奨文書)送付による受診勧奨が開始した。その結果、勧奨後の新規受診が8名確認され、2023年7月時点において、陽性者の受診確認率は約83.1%と上昇し、職域検診における個別受診勧奨の有効性が示された。

協会けんぽ山口支部では本政策研究の協議を契機に、支部所属の健康指導員全員が肝炎医療コーディネーター(山口県肝疾患コーディネーター)の認定を取得しており、肝炎検査や陽性者への受診勧奨の必要性の

理解が深まり、介入に積極的であることも受診勧奨の効果上昇に役立っていると推測する。未受診者への個別勧奨は有効な手段であり、今後も継続していく。

## E. 結論

Nudge 理論を活用した簡易リーフレットによる受検啓発は肝炎検査促進に簡便かつ有用な取り組みであるが、検査促進維持には、健診機関への継続的なアプローチが必要である。

職域における肝炎検査陽性者の多くが、その後比較的早期に医療機関を受診しており、肝炎検査の受検啓発が新規患者の掘り起こしにつながった。

職域においても、受診勧奨文郵送による個別勧奨は医療機関未受診者の新規受診につながる有効な手法である。

## F. 政策提言および実務活動

### <研究活動に関連した実務活動>

研究班の活動を契機に、協会けんぽ山口支部の保健指導員が肝炎医療コーディネーターを取得後、定期的な協議継続できている。その結果、保健指導員による積極的な未受診者への受診勧奨へつながっている。

## G. 研究発表

### 1. 発表論文

○日高 勲 地域における肝炎医療コーディネーターの配置と活躍 肝胆膵  
88: 171-178, 2024

### 2. 学会発表

なし

### 3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし